

1 研究主題

主体的に問題を解決しようとする子どもの育成を目指す理科学習（1年次／2）

2 主題設定の理由

（1）本校の教育目標から

本校では、『豊かな心をもち、たくましく生きる子どもの育成』を学校教育目標に掲げ、

「**み**んな **な**かよし **み**な元気」を合言葉に、目指す子ども像を次のように設定し、具

現化に向け、教育実践を行っている。

- 自ら学び、友だちと協力して問題を解決しようとする子ども
- 思いやりの心をもち、相手の立場に立って考え、行動できる子ども
- 進んで体をきたえ、粘り強い子ども

（2）今日的課題

現在、超スマート社会（Society5.0）実現に向けた社会動向をはじめ、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新により、社会構造や雇用環境が大きく急速に変化し、予測困難な時代になっている。そのため、次世代を担う子どもたちには、社会の変化に積極的に向き合い、様々な情報を見極めたり、目標に向かって粘り強く進んでいく資質や能力を身に付けたりしていくことがもとめられる。

（3）本校の子どもの実態

本校の子どもたちは、素直で真面目である。与えられた課題に対しては、取り組むことができる。しかし、個人で考えたことについて意見交換は出来るが、根拠を基にして議論し、自分の考えをより妥当なものにする力も十分とは言えない。また、理科の学習においては、生活経験の少なさからか、根拠のある予想や仮説を発想する力が弱い傾向がある。学習したことを知識として獲得することは出来るが、既習事項をつなげて、より科学的な概念を形成することに向かう力も弱い。

以上のことから、本校の研究では、「主体的に問題を解決しようとする子どもの育成を目指す理科学習」を中心とした確かな学力を育成するための指導のあり方を追究することにより、指導力の向上を図っていきたいと考えた。

3 研究の内容

(1) 理科・生活科の授業づくり

①子どもの主体性を高める単元構想の工夫

- ・単元で学ぶべき内容につながる問題意識が生じるよう「何と」「どのように」「何のために」を明確にして出会わせ方を検討する。
- ・子どもが、予想や仮説を確かめるための観察・実験の計画を立てられるようにする。
- ・一人一人が観察・実験の主体となるようにする。

②よりよく問題を解決する資質や能力を育てるための工夫

- ・違いに着目するなど、見る視点を与える。
- ・繰り返し自然事象に関わる等、探究の過程を積み重ねる。
- ・実証性・再現性・客観性などにこだわって問題を解決できるようにする。
- ・「理科の見方・考え方」を働かせながら、考えを共有し、友だちと協働する中で、より妥当な考えを生むことができる場をつくる。

③学んだことを生かす学習場面の工夫

- ・終末の場面において、子どもたちが自分の言葉でまとめ、振り返り「分かった。できた。」と実感できる時間の確保をする。
- ・次の学習や新たな疑問につなげる手立ての工夫をする。
- ・獲得した知識・技能を実際の自然や日常生活に当てはめて考えたいくなるような手立てを工夫する。

(2) 授業を支える基盤づくり

①一人一人の自己肯定感を高め、ともに認め合い支え合う集団づくり

- ・一人一人を大切にしたい学級経営の推進
- ・自分で判断し、行動できる実践力の育成
- ・自己表出や自己表現の場の充実
- ・縦割り班活動を活用した異学年交流

②学力の向上

- ・基礎的・基本的な知識・技能の習得（チャレンジタイム、漢字・計算会の実施）
- ・基本的学習習慣や家庭学習の習慣の確立
- ・学校図書館活用教育の推進
- ・言語活動の充実を意図した授業づくり
- ・個別の支援

4 研究教科、研究実践について

本校は、令和7年度「島根県理科教育研究大会」において、5年生か6年生の理科を授業公開することが決定しているため、2か年計画で理科の研究を進めていく。ただし、理科は3年生以上に限られるため、どの学級、どの教科からも研究に関わることができるよう、「本校の児童の実態をふまえためざす子ども像」を明確にして研究を進めることとする。

(1) 研究教科

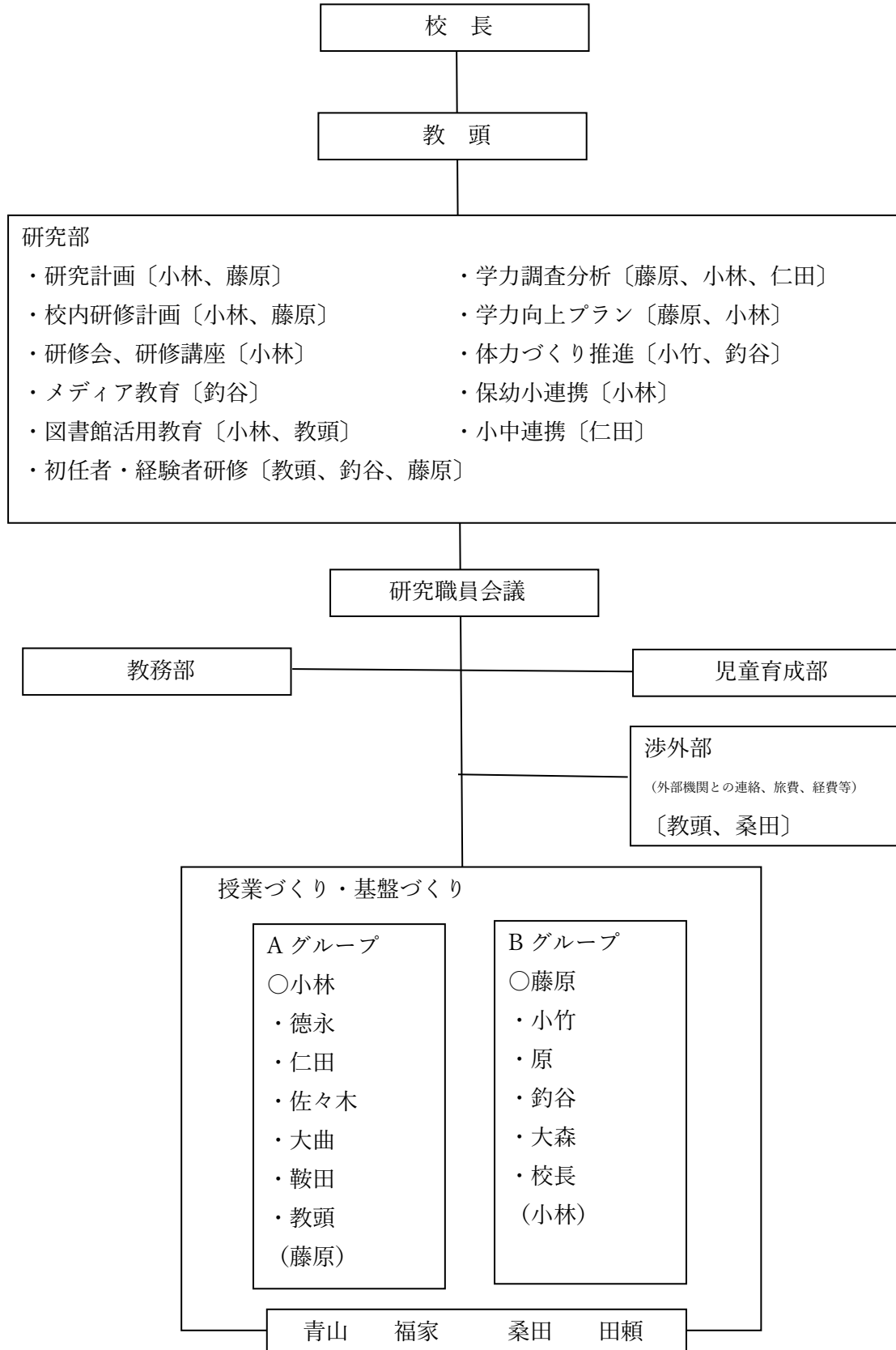
1・2年生：生活科 3～6年生：理科

なかよし学級：実態に応じて

(2) 研究実践

- 教材資料を集め、教材研究を行う。
- 板書等、授業実践の記録を残したり、資料を保管したりする。
- ICTを活用する。
- 指導案に、研究の視点として主体的に問題を解決しようとする子どもの育成を目指すための手立てを記載する。
- 指導案は、単元計画と本時案は、必ず作成する。
- 研究授業は、理科（藤原、徳永、小竹）、生活科（小林）が行い、原則全員が参加する。研究授業の前に、指導案の説明を職員会等で行う。
- 子どもたちが理科への関心が高まるように、掲示物等作成する。
理科の啓発（クイズ、工作等の紹介）・・・釣谷、佐々木、大森、校長、青山、（小林）
環境整備（年間を通して飾れる物の作成）・・・仁田、原、鞍田、大曲、教頭、（藤原）
- 指導案審議、授業記録は、Aグループ、Bグループで行う。
- 研究協議は、原則全員が参加する。司会、記録は、Aグループ、Bグループで行う。
- 先進校等の外部の授業を参観する。

5 研究組織



6 研究推進

月	部会・会議・訪問等	研究授業	その他
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回研究部会 (研究の方向性の検討) ・訪問指導申請 		<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上 「日常の取り組み」提案 ・23日 全国学力調査
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回研究部会 ・第3回研究部会 		
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・10日 職員会議 (研究推進計画、指導案形式提示) ・授業実践希望調査 第1次 ・28日 小学校理科教育講座 参加 小林 		
7月			
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修 ・研究職員会議(2学期からの 取り組みについて) 		
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議 (研究実践収録作成について) 	12日 1・2年体育科研究授業(2年目フォローアップ研究)	
10月			
11月			
12月			<ul style="list-style-type: none"> ・5日 島根県学力調査
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究部会 (学校評価改善案検討) 		
2月			

3月	・研究のまとめ完成 ・職員会議 (今年度の取り組みの振り返り)		
----	---------------------------------------	--	--

※令和7年度の理科の研究会は、10/23（木）

※継続型訪問指導の担当は、高橋隆子先生。